

製品名: Hint1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12029**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	28kDa

抗原情報

遺伝子名	HINT1 HINT1; HINT; PKCI1; PRKCNH1; Histidine triad nucleotide-binding protein 1; Adenosine 5'-monophosphoramidase; Protein kinase C inhibitor 1; Protein kinase C-interacting protein 1;
別名	PKCI-1
遺伝子 ID	3094.0
SwissProt ID	P49773
免疫原	抗血清はヒト HINT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

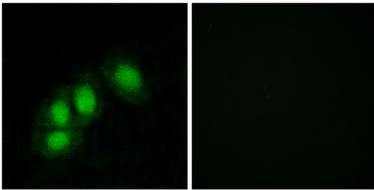
背景

この遺伝子は、AMP-モルフォリデート、AMP-N-アラニンメチルエステル、AMP- α -アセチルリジンメチルエステル、AMP-NH₂などのプリンヌクレオチドホスホラミデート基質を加水分解するタンパク質をコードします。コードされているタンパク質は、ヒスチジントライアドモチーフを介してこれらの基質と相互作用します。この遺伝子は腫瘍抑制遺伝子と考えられています。さらに、この遺伝子の変異は、常染色体劣性ニューロミオトニアおよび軸索性ニューロパチーを引き起こす可能性があります。7番染色体上には関連する偽遺伝子が複数存在します。また、複数の転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2015年12月]、注意：当初はプロテインキナーゼC阻害剤であり、溶液中で亜鉛に結合すると考えられていました。どちらも誤りと思われる。、ドメイン：ヒスチジントライアド (HITモチーフとも呼ばれる) は、プリンモノヌクレオチドの α -リン酸に対する結合ループの一部を形成します。、機能：AMP-モルフォリデート、AMP-N-アラニンメチルエステル、AMP- α -アセチルリジンメチルエステル、AMP-NH₂などのアデノシン5'-モノホスホラミデート基質を加水分解します。、類似性：HINTファミリーに属します。、類似性：1つのHITドメインを含みます。、細胞内局在：CDK7との相互作用により、核局在が促進されます。、サブユニット：ホモ二量体。CDK7と相互作用します。、組織特異性：広く発現しています。、

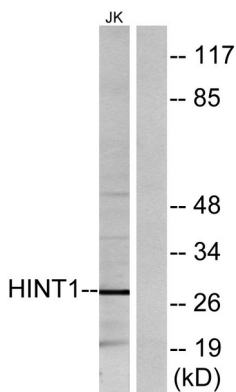
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

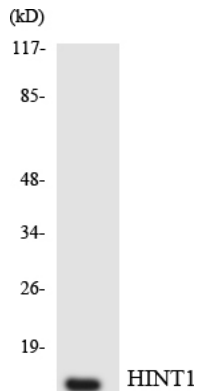
画像データ



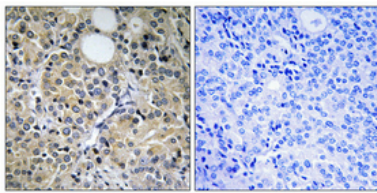
HINT1抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



HINT1抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



HINT1 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト前立腺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。